

森林パトロール通信

平成25年度 第 3 号 平成25年7月29日発行



昨年、「遊々の森」の協定を締結した中里中学校の体験学習が今年もスタートしました。学習内容は、「県木」であり「中泊の町木」でもあるヒバで「空中取り木」の技術を用い、苗木を作り植林するものです。

6月12日、中里中学校の体育館で森林教室を開催し、1年生64名が森林の役割と苗木の作製について事前学習しました。



事前学習の様子

「空中取り木苗」はヒバの枝を利用し、苗木の根がでる部分の樹皮を2cmほどはく皮し、はく皮部分に水苔を巻き付けビニールで覆い、両端をひもで縛って発根させ苗木を作るというものです。

タネから苗木を作るよりも早く山行き苗ができ、作りたい大きさの苗を生産できる等の利点があります。(別添参照)

6月21日には、事前学習した苗木づくりを今泉山国有林350林班で実践しました。生徒たちは使い慣れないカッター等を使い、木の皮をはいたり、水苔を巻いたり、測竿で木の高さを測ったりしながら、真剣に作業していました。

発根し苗木になるのは3～4ヶ月後です。秋には、「空中取り木苗」を植林することになりますが、うまく発根していることを祈るばかりです。



はく皮の様子



水苔を巻き付けている様子



測樹の様子

7月2日、今泉山国有林362林班で2年生75名が下刈り・測樹体験を実施しました。昨年植林した箇所は露等の下草に覆われ、苗木がほとんどかかっている状態でしたが、生徒たちは初めて使う下刈り鎌に苦戦しながらも、下刈り作業に取り組みました。また、測樹は12本の供試木を輪尺と測竿を使い、径級（太さ）と樹高（高さ）を測定しました。この体験学習を通して、森林・林業への興味や理解が深まることを期待しています。



事務局から

会員の皆様からの投稿をお待ちしております。紙面の充実にご協力下さいますようお願いいたします。



津軽森林管理署金木支署 担当：木村 勝一

0173-53-3115 FAX 0173-53-3197